

令和2年第7回教育委員会会議定例会 議事録

午後 2時30分開会

1 日 時 令和2年 7月30日(木)

午後 4時00分閉会

2 場 所 第1・2委員会室

3 出席者 高田教育長, 浅野教育長職務代理者, 市川委員, 竹下委員, 西川委員,
平田委員

4 説明員 中川教育次長, 富本人事管理担当課長, 大橋教育指導担当課長,
堀川文化生涯学習課長, 山口総務学事課教育総務係長
竹原市教科用図書採択地区選定委員会

中学校及び義務教育学校後期課程 会長 吉田光範

5 会議事件

付議案件

報告第 4号 臨時代理処分の承認について

(臨時市議会に提案される教育委員会関係の議案について

(令和2年度教育委員会関係補正予算案))

議案第57号 令和3年度使用竹原市中学校及び義務教育学校後期課程教科用図
書の採択について

○高田教育長

ただいまから, 令和2年第7回竹原市教育委員会会議定例会を開会いたします。教育委員会会議を傍聴したいとの申し出がございましたので, これを許可したいと思います。傍聴にあたっては, 竹原市教育委員会傍聴規則を遵守していただきますようよろしくお願いいたします。なお, 第4条第4号の規定により許可なく写真撮影, 録音, 録画をすることは禁止しておりますので, 申し添えます。はじめに, 報告第4号「臨時代理処分の承認について(臨時市議会に提案される教育委員会関係の議案について(令和2年度教育委員会関係補正予算案))」を議題といたします。関係課よ

り議案の説明をお願いします。

○中川教育次長 議案書の1ページをお開きください。今教育長からご報告がありましたように先の臨時市議会におきまして、教育委員会関係分の補正予算を代理処分いたしましたので、ご報告を申し上げるものでございます。代理処分の年月日は7月8日で議会に承認されております。2ページをお開きください。併せまして、資料1をご覧ください。竹原市一般会計補正予算第5号ということで、教育委員会関係の確定分を資料1で、事業別に掲載させていただいております。先月の教育委員会会議において、およそ84,000千円の要求ベースで一般会計補正予算を上程予定ということでご説明いたしましたが、精査の結果、約48,000千円を一般会計補正予算第5号で臨時議会で議決をいただいております。変更部分につきましては、「学びの保障」関連物的体制整備に要する経費ということで、当初50,000千円で要求しているのご報告申し上げましたが、13,000千円で予算を上程させていただきました。理由としましては、学校の換気システムを当初見込んで要求しておりましたが、経費に関わる効果の部分が費用対効果の部分で不透明なところがございますので、一旦今回は見送りまして、先の教育委員会会議でご説明いたしました学校1校当たり1,000千円という国の臨時交付金の予算配分に見合う部分だけを計上して、合計47,819千円の補正予算額となっているものでございます。以上でございます。

○高田教育長 これより質疑に入ります。何か御質問はありますか。

○高田教育長 お諮りいたします。報告第4号は、原案のとおり承認することに御異議ございませんか。

○浅野教育長 はい。

職務代理者

○市川委員 はい。

○竹下委員 はい。

- 西川委員 はい。
- 平田委員 はい。
- 高田教育長 御異議なしと認めます。よって報告第4号は、原案のとおり承認することに決定いたしました。続いて、議案第57号「令和3年度使用竹原市中学校及び義務教育学校後期課程教科用図書の採択について」を議題といたします。ここで事務局から、説明員として、竹原市教科用図書採択地区選定委員会中学校及び義務教育学校後期課程会長の入室の許可について申出があります。これを許可することに御異議ございませんか。
- 浅野教育長 はい。
 職務代理者
- 市川委員 はい。
- 竹下委員 はい。
- 西川委員 はい。
- 平田委員 はい。
- 高田教育長 御異議なしと認めます。よって説明員の入室を許可します。関係課および説明員より議案の説明をお願いします。
- 大橋課長 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定により、令和3年度に中学校及び義務教育学校後期課程で使用する教科書を採択するものでございます。これより選定委員会長より調査研究報告書を基に作成しました選定委員会答申について説明いたします。
- 吉田校長 それでは、調査研究委員会からの報告を基に選定委員会で審議した結果を答申いたします。なお、これから申し上げる内容は選定委員会での内容です。まず、答申の表紙をめくっていただき、令和3年度に使用する教科用図書の調査研究の観点についてをご覧ください。調査研究の観点は、5つです。観点1「基礎・基本の定着」、教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるため指導内容の工夫がなされているか、観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れるなど、

生徒の主体的な学習を引き出す指導方法の工夫がなされているか、観点3「内容の構成・配列・分量」、伝統や文化についての教育の充実や教科横断的な学習の充実にあふさわしい内容の構成・配列・分量となっているか、観点4「内容の表現・表記」、さし絵・地図・図表等の資料が有効に使われ、生徒にとって親しみやすい表現・表記になっているか、観点5「言語活動の充実」、教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動の工夫がなされているか、「特別の教科 道徳」については観点1「基礎・基本の定着」、生徒が自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、生き方についての考えを深めるため、学び方の示し方や発問の示し方等に創意工夫がなされているか、観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れるなど生徒が道徳的価値を自分との関わりで捉えるような主体的な学習を引き出す工夫がなされているか、観点3「内容の構成・配列・分量」、学習指導を効果的に進める上で、生徒の学年段階に即し、現代的な課題などのねらいを達成するにあふさわしい適切な内容の構成・配列・分量となっているか、観点4「内容の表現・表記」、巻頭や巻末にさし絵・写真等が有効に使われ、生徒にとって親しみやすい表現・表記になっているか、観点5「言語活動の充実」、自分の考えについて、話し合う活動や書く活動を行う中で考えを深め判断し、表現する力など育むことができる工夫がなされているか、以上の5つの観点を基にして、教科用図書について調査委員に調査いただき、選定いたしました。11ページをご覧ください。ここからは、各教科、出版社ごとに5つの観点のそれぞれについて、特に優れていると評価したものの一覧でございます。特に優れているものに星印をつけております。そして、右端の二重丸は星印の合計の数が最も多かったもの、つまり選定委員会で評価の最も高かった教科書を表しています。それでは、選定委員会で評価の最も高かった教科書について説明させていただきます。3ページをご覧ください。まず、「国語」です。調査研究を行った教科書は4社です。対象となった4社の図書

は、いずれも、基礎的・基本的な内容を定着させるため、指導内容の創意工夫がされています。また、言語活動は、いずれの教科書も読書活動や情報の取扱い方に係る単元において多様な活動例が設定されています。とりわけ、東京書籍は、巻末に資料編が示され、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」に係る基礎的・基本的な事項が示され、既習事項を振り返ることができます。また、巻末には「学びを支える言葉の力」のまとめとして他教科や生活へのつながりが示してあり、主体的に学習が進められるよう工夫されています。そして、全ての学年において、教材、読書案内、読書活動の流れによる読書単元を設定しており、主体的な学びを進める工夫があります。以上のような視点に優れていることから、推薦する答申としております。続いて、「書写」でございます。調査研究を行った教科書は4社です。対象となった4社の図書は、いずれも、写真により視覚的に姿勢や筆記用具の持ち方を示し、点画や筆使いの説明は2色を使用して筆の動きがわかるよう記載がされています。また、いずれも、二次元コードがあり、インターネットを通して動画を閲覧できる工夫がされています。とりわけ、東京書籍は、「書写のかぎ」に文字を正しく書くための「ポイント」が示されており、留意すべき点を明確にしながらか書写を行うことができるよう工夫されています。また、職場訪問をしよう、本のポップを書こう等、身近な活動を題材として身に付けた知識・技能を活かす場面が設定されています。そして、本編中の各学年において書き初めが取り扱われており、書く時の姿勢を写真で示してあります。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。続いて、「社会（地理的分野）」でございます。調査研究を行った教科書は4社です。対象となった4社の図書は、いずれも、我が国の国土と領土に対する理解と愛情を育てるための工夫として、領土をめぐる問題等に関する記載がされています。また、1単位時間は見開き2ページとして、学習課題や資料を読み取る視点を明確に提示しています。とりわけ、東京書籍は、「みんなでチャレンジ」において、写

真や資料を読み取り，話し合う活動が設定されており，対話的な学びの工夫があります。また，「地域調査の手法」では，調査の手順が資料とともに示されています。そして，章末のまとめでは，自分の言葉でまとめる活動に加えて探究課題を設定し，更なる学びを進めるための工夫があります。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。続いて，「社会（歴史的分野）」です。調査研究を行った教科書は7社です。対象となった7社の図書は，いずれも，1単位時間を見開き2ページとして学習課題とまとめを示し，本時の目標を分かりやすく明示しています。また，どの教科書も，ユニバーサルデザインフォント，カラーユニバーサルデザインを採用するなど，生徒の学習に配慮した表記や構成としています。とりわけ，東京書籍は，各章において導入資料，学習課題，1時間の学習を整理する「チェック」「トライ」，章全体の学習を確認する「基礎・基本の確認」が構造化されており，学習の流れが明確です。また，章始めと章末に「探究課題」や「探究ステップ」が提示されており，生徒が主体的に学習課題を進め，振り返る工夫があります。そして，グループで対話的に課題に取り組む「みんなでチャレンジ」や学習のまとめの活動において思考ツールを用いて表現するページを設定しています。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。続いて，「社会（公民的分野）」です。調査研究を行った教科書は6社です。対象となった6社の図書は，いずれも，1単位時間を見開きとして1時間の学習課題を提示しています。また，重要語句は太ゴシックで表示するなど，基礎的・基本的な内容の定着を図る工夫がされています。とりわけ，東京書籍は，学習の導入の活動が，単元の学習全体をつらぬく「探究課題」へとつなげられており，生徒が主体的に学習に取り組む工夫となっています。また，掲載資料に教科関連マーク，分野関連マークを配置し，他教科や他分野，既習事項との関連を明確に示しています。そして，思考ツールを使って考えを整理・分析し記述する欄を設定しており，言語活動を展開しやすい工夫がな

されています。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。続いて、「地図」です。調査研究を行った教科書は2社です。対象となった2社の図書は、いずれも、生徒が基礎的・基本的な内容を確実に定着することができるよう工夫がされています。また、地図への興味や関心を持たせ、他分野での学習に活用できるよう工夫がされています。とりわけ、帝国書院は、防災と環境に関連する資料にマークが付けられており歴史と防災に関する拡大地形図があります。また、「同緯度・同縮尺の日本」が表記され、常に日本との比較ができるように編集されています。そして、二次元コードを世界各州と日本の地方ごとに掲載し、学習を深める資料やクイズなどのコンテンツを閲覧できるようにしています。また、各所に「地図活用」が配置され、読図や作図などを通して言語を使って考え、判断し、表現する学習へとつなげています。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。続いて、「数学」です。調査研究を行った教科書は7社です。対象となった7社の図書は、いずれも、基礎的・基本的な知識や技能の習得をめざし問題を構成するとともに、主体的な学びにつなげるための課題が精選されています。とりわけ、東京書籍は、全国学力・学習状況調査の誤答例等を取り上げ、誤りを指摘し正しく直す学習活動を設定しています。また、導入課題として日常生活の一場面を「イラスト」と「問いかけ」で提示しており、生徒の素朴な疑問から解決への必然性をもたせる工夫があります。そして、図形領域のデジタルコンテンツでは、回転体等図形を動的に観察でき、図形の問題に新たな条件を加えて提示することができます。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。続いて、「理科」です。調査研究を行った教科書は5社です。対象となった5社の図書は、いずれも、単元の最後では学習した内容を確認する問題を取り入れるなどの基礎・基本の定着を図る工夫が見られます。また、言語活動については、いずれの図書も話合いの仕方が、詳しく記載されています。とりわけ、東京書籍は、探究の過

程により、実験計画の立案や実験、考察を進めることができるように、フローチャートを示しています。また、「構想 調べ方を考えよう」「結果の見方」「考察のポイント」等により観察、実験を計画する視点や分析・解釈する視点を示しています。そして、各学年の巻頭に「考えが異なったら考えを言葉にして議論しよう」を設定し、議論の進め方として6点と議論のポイントとして4点の視点を示しています。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。続いて、「音楽（一般）」です。調査研究を行った教科書は2社です。対象となった2社の図書は、いずれも、生徒の興味関心を生かし、基礎的・基本的な内容を確実に定着させるとともに、思考力・判断力・表現力を育成するため、いずれも、学習方法の工夫がなされています。とりわけ、教育芸術社は発声について3学年にわたり発達段階に応じて段階的に扱われていること、楽典の学習においてゲーム的要素を取り入れており、反復学習ができることなど、音楽の基礎・基本を定着するための工夫があります。また、ICTの活用を想定した二次元コードが豊富に掲載されています。そして、楽譜、写真を大きく掲載し、伝統芸能についてはメロディの動きを表に表すなどの視覚的支援があります。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。続いて、「音楽（器楽合奏）」です。調査研究を行った教科書は2社です。対象となった2社の図書は、いずれも、基礎的・基本的な内容を確実に定着させるために、写真やイラストを多く使い、段階的に習得できる工夫がなされています。とりわけ、教育芸術社は目次に続く学習内容のページに、三つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材を図示しています。また、紹介されている楽器の種類が多く、打楽器については15種類の説明があり充実しております。そして、和楽器を演奏する際の姿勢と構え方、奏法について、体全体や指の動きが写真で視覚的に示されています。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。続いて、「美術」です。調査研究を行った教科書は3社です。対象とな

った3社の図書は、いずれも、題材ごとに「学習目標」を示しており、内容の配列・分量に偏りが無いよう工夫がされています。また、いずれも、参考作品は原寸大で鑑賞できるように工夫をしています。とりわけ、光村図書は題材ごとに目標を示しており、身に付ける力や学習のねらいを明確にしています。また、題材ごとに、学びの流れが一目でわかる「授業が見える」紙面構成としており、「表現」と「鑑賞」を一体的に学ぶことができる構成となっています。そして、47都道府県の伝統工芸や国内の世界文化遺産の掲載が豊富であり、大きく掲載されています。鑑賞の題材では紙面の見せ方や紙質に工夫があり、鑑賞図版の上から書き込みができるトレーシングペーパーが綴じ込まれています。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。続いて、「保健体育」です。調査研究を行った教科書は4社です。対象となった4社の図書は、いずれも、各章末に振り返り問題を設定するなど基礎的・基本的な内容の定着を図るための工夫があります。また、主体的な学びを促すための「課題発見・解決学習」の学習過程を取り入れる工夫がされています。とりわけ、大修館書店は各章末の「章のまとめ」は、育成を目指す資質・能力の三つの観点にそった構成であり、自己評価できる欄があります。「コラム」「事例」「保健の窓」「体育の窓」として、学習内容の理解を助ける話題が掲載されています。そして、「章のまとめ」に活用問題、自分の生活に活かす問題があり、自分の考えを表現し記述する欄を設けています。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。続いて、「技術・家庭（技術分野）」です。調査研究を行った教科書は3社です。対象となった3社の図書は、いずれも、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、生活を工夫し創造する資質・能力を育成する学習内容を多く取り入れています。また、パソコンと連動したデジタル教材の充実を図っています。とりわけ、東京書籍は、基礎的・基本的な技能について「TECHLAB」として、工程ごとにまとめて記述してあります。また、問題解決カードを設定し、学

習のまとめにおいて新たな課題について考えさせるなど、問題解決能力を高める工夫があります。そして、思考ツールを利用して考えを整理する活動が設定されています。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。続いて、「技術・家庭（家庭分野）」です。調査研究を行った教科書は3社です。対象となった3社の図書は、いずれも、作業工程などがイメージしやすいようにQRコードにより動画や写真を活用できるよう自分の課題への取り組み方を掲載しており、主体的に学習に取り組む上での工夫が見られます。とりわけ、東京書籍は、五大栄養素と6つの食品群の関連について折り込みページでわかりやすく示されています。また、ユニバーサルデザインの観点からQRコードを巻末の一覧にまとめて掲載しており、作業工程について動画のみでなく音声による解説があります。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。続いて、「英語」です。調査研究を行った教科書は6社です。対象となった6社の図書は、いずれも、生徒に興味・関心を持たせる題材や絵、写真を豊富に用い、親しみやすい表現・表記になるよう構成が工夫されているとともに、いずれも学習の到達目標を具体的に示しています。また、言語活動の充実に向けて、数単元のまとまりごとに習得したことを活用するための効果的なタスクが設定されています。とりわけ、東京書籍は、目次に各単元の「活動目標（GOAL）」を具体的に提示しており、学習の見通しを持たせる工夫があります。また、小学校で習った英語表現を使うUnit 0の設定により、中学校の学習への円滑な接続が図られています。そして、QRコードにおいて新出語句と本文の音声、Previewにおいて音声と映像を収録しており、視覚的支援が豊富です。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。続いて、「道徳」です。調査研究を行った教科書は7社です。対象となった7社の図書は、いずれも「考え、議論する道徳」の実現のために、道徳の学び方や話し合いの仕方等についてオリエンテーションを設定するなどの工夫がされています。また、絵を基

に自由に意見を出せる授業や役割演技を取り入れた授業など、多様な学習展開を設定しています。とりわけ、日本文教は、教材末に示された問いが2つに精選されており、人間としての生き方を深く考える工夫があります。また、全学年に「いじめ問題」に対応した3、4時間から成るユニット学習があり、学習時期を各学年4、5月に配列しています。そして、別冊「道徳ノート」に、友達の意見や話合いをメモする欄があり、自分の考えや、学習の振り返りを記述する欄が設けられています。以上のような視点に優れていることから推薦する答申としております。以上で、選定委員会の選定結果を基に説明させていただきました。よろしく願いいたします。

○大橋課長 以上、選定委員会の答申を元に、令和3年度使用竹原市中学校及び義務教育学校後期課程で使用する教科用図書採択についてご審議いただきますようお願いいたします。

○高田教育長 これより質疑に入ります。質疑ははじめに、全体の質疑を行った後に種目別の質疑を行いたいと思います。まずは全体の質疑から行います。調査会・選定委員会の流れや選定の方法等の総括的な御質問はございませんか。

○西川委員 選定の観点5つについて、星がない項目があります。星がないということは、この観点において全社星がない項目もありますが、その際に見る側としては、この項目については、観点に見合う内容のいいところはなかったという理解でよろしいですか。

○吉田校長 星印がないところにつきましては、優れていないということではなく、あくまで特に優れているところにつきまして、星印をつけておりますので、星印がないからといって、そこが優れていないというわけではございません。

○西川委員 教科によって、星の数が同数の場合がありますが、その場合選定委員さんの中でも意見が割れると思いますが、そういった時、どのようなプロセスで合意に至るのか教えてください。

○吉田校長 星印が同数の教科もございます。こちらにつきましては、協議の中でど

ちらも非常に優れているということはあるのですが、竹原市の取組の方向性として、ICT教育の充実、あるいは主体的な学びの充実といった視点に立って、特にそういった取り組み・内容が充実しているというところを協議の結果、選定していくということです。

○浅野教育長
職務代理者 現在使われている教科書と今回選定された教科書で、変わったものもございませぬ。変わったものというのは、今言われたICT教育とか主体的な学びとかそういった項目が変わったことで、その辺りの評価が今回の調査で変わったということですか。

○吉田校長 前回と変わった教科が4教科ございませぬ。こちらについては、今申し上げた主体的な学びやICTの工夫だけではなく、トータル的に5つの観点を全て吟味していった時に、結果として教科用図書が従来と変わったものでございまして、特定の観点だけを注視して変更したということではございませぬ。

○市川委員 調査は、大崎上島町と東広島市と一緒にされますよ。選定は個別だと思ひますが、選定委員会は別個で話しがあつて、連絡を取り合うということではなくて、個別に選定結果を出すということですか。

○大橋課長 調査委員会と選定委員会は別個の組織でありますので、調査をするものは3市町合同で全ての社をしっかりと調査を行い、その結果を踏まえ、今度は竹原市の選定委員会の中で吟味をして一番竹原市の方向性にぴたり合うものというところで選定案を出しておりますので、連絡を取つてということはありません。

○浅野教育長
職務代理者 例へば、大崎上島町と竹原市で視点が全く違ふと考へていいですか。調査研究して、教科書を選定する中で例へば、「基礎・基本の定着」教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫というものが、もうすでに大崎上島町と竹原市で違ふということですか。

○大橋課長 それは一緒です。県の方針です。

○浅野教育長 竹原市独自で観点を作つてゐるのではないのです。

職務代理者

- 平田委員 5つの観点があって、それに対して視点が書いてあるのですが、これを基準に教科書を決めているのですか。
- 高田教育長 5つの観点がどのように定められたかということですか。
- 大橋課長 まず、5つの観点ですが、これは新しい学習指導要領の方向性に基づいて広島県教育委員会が5観点を示しておりますので、それに準じて調査委員会もこの5観点を調査を行いました。右側にある視点ですが、この観点をしっかりと吟味し、調査していく時に具体の姿でもう少し砕いたもの、これが視点とっていただけたらと思います。基本的には、これは県に準じて調査をしております。
- 平田委員 県の方針ということですね。それに準じて選んだものということですね。見ていくと、QRコードとかICTとか二次元コードという言葉がよく出てくるのですが、そういうものがたくさん載っているとポイントが高くなるのですか。実際にQRコードを使って試されて、調査しているということですか。
- 吉田校長 もちろん、QRコードや二次元コードの数だけを見ているものではございません。実際にそのQRコードや二次元コードに掲載しているものが、どういうものか確認をした上で、選定を進めております。例えば、一例を申し上げますと、数学において、こういった長方形であるとか三角形というものがQRコードには実際に回っていきながら一つの回転体のように具体的に描かれて、子供たちがそれを見ると非常にわかりやすく掲載されているというような、そういったQRコードにこういった動画が載っているのかを踏まえて学習がしやすい、あるいは興味・関心を持ちやすいようなQRコードになっているかどうかという視点も検討しているところでございます。
- 平田委員 中学三年生は受験がございますよね。どこの教科書が入試によく出るといったような、保護者としては、県が定めている目標に応じて学習してい

くのも大事ですが、子供が志望する学校に効率よく入ってくれるということも希望していると思います。そういう入試に取り上げられやすいという観点はありますか。

○吉田校長 基本的に、高等学校の入試につきましては、県の教育委員会で、どの教科書を採用したら不利になるとか有利になるということではなく、作成されていると捉えています。従いまして、どの教科書を選んだか、高等学校に有利であるという観点では、今回選定はしておりません。

○高田教育長 これより、種目別の質疑に入ります。それでは、種目「国語」について、質疑を行います。答申書の3ページ、報告書の1～4ページの部分となります。何か御質問・御意見はありませんか。

○西川委員 国語の判断資料を見ると、東京書籍と光村図書が、星の数が5と4で、東京書籍にあって、光村図書にないのが、観点2「主体的に学習に取り組む工夫」で、東京書籍の方が光村図書さんより優位に立ったということで、優位性について最初に御説明があったのですが、それ以外に何か優位性を示す根拠となるものがあれば教えてください。

○吉田校長 どちらが優位か個別の2つの教科用図書を比較してというよりも、それぞれの教科用図書を見た上で特に優れているかという観点で見させていただきました。従って、もちろん光村図書の方も主体的に学ぶそういった工夫がなされております。しかし、先ほど申し上げましたように巻末にさらに学習のまとめであるとか各教科・他教科への生活のつながりであるとかそういったところがさらに示してある状況がありますので、そういった意味で主体的に子供たちがより学習が進めやすいのではないかという観点で、最終的に特に優れていると判断したところです。

○高田教育長 続いて、種目「書写」について、質疑を行います。答申書の3～4ページ、報告書の5～6ページの部分となります。何か御質問・御意見はありませんか。

○市川委員 「書写」は2社とも星が4つですが、この場合、選ばれたのは「国語」

が東京書籍だからという関係がありますか。

○吉田校長 国語だけではございませんが、1つの教科に複数使用する教科用図書を検討する場合、同じ教科用図書会社なのでそれを優先させたということではございません。あくまでも観点に基づいて、より優れていると判断し、検討し、答申させていただいております。

○平田委員 同じ点数の場合、今までの話では、ここが良いと良いところを挙げていますが、逆にあまり良くないところもあると思います。そういったところは、マイナス評価をすることがありますか。

○吉田校長 基本的に選定につきましては、全ての教科用図書が文部科学省の検定を通っているということを前提に、検討を進めておりますので、内容的にどの教科用図書も検定を通っている状況を踏まえた、あくまでも常に5観点という視点で選定をさせていただきます。従いまして、そういった意味で特に優れているところを今回踏まえて選定をさせていただいております。

○平田委員 それは、全ての教科でということですね。

○吉田校長 はい。

○高田教育長 私の方から1点確認をさせていただきます。先ほどの御説明にもありましたが、「書写」においては、2社でどちらも星が4つといった中で、選定委員会として東京書籍をご推薦いただいた。そのポイントをもう一度お話しいただけますか。

○吉田校長 「書写」については、星印の数が同じということで大きな違いはありませんでしたが、しかしながら先ほど御説明いたしました中に書き初め、こういった書き初めなどの内容の記述が例えば、見開きでこのように書き初めのコーナーがあって、隣には具体的に正しい持ち方を示しながら、子供たちが書き初めをしっかりとできるような表記の工夫がなされているといった充実であるとか、また伝統文化に関する記載も非常に東京書籍の方が優れていたということがございましたので、最終的にそちらの方を推薦しているところでございます。

○高田教育長 続いて、種目「社会（地理的分野）」について、質疑を行います。答申書の4ページ、報告書の7～8ページの部分となります。何か御質問・御意見はありませんか。

○竹下委員 社会（地理）だけではないのですが、地理・歴史・公民が全て東京書籍になっていて、先ほどの「国語」「書写」の時も同じ会社に揃えたわけではないという説明がありましたが、社会も同じになっていますが、そういった理由で揃えたわけではなくても、学校で子供たちに授業として教育する中で、やはり同じ会社の方が進めやすい面はあるのですか。

○吉田校長 これは調査委員からの中で、基本的に分野が違うから、違った場合に教科用図書の会社が違ふとその関連性が難しいかそういった視点で難しいという話は聞いておりません。従いまして、あくまで教科用図書会社と一緒にの方が指導がしやすいとかしにくいというような違いがあるのではなく、先ほどから申し上げましたように検討自体は、その分野別に行っておりますので、例えそのことで、会社と一緒に、違ふというところの部分の指導のしやすさ・しにくさではなくて、あくまでも教科用図書として優れているかどうかという視点で選定をさせていただいているところでございます。

○高田教育長 続いて、種目「社会（歴史的分野）」について、質疑を行います。答申書の4～5ページ、報告書の9～12ページの部分となります。何か御質問・御意見はありませんか。

○高田教育長 続いて、種目「社会（公民的分野）」について、質疑を行います。答申書の5ページ、報告書の13～18ページの部分となります。何か御質問・御意見はありませんか。

○西川委員 社会は、地理・歴史・公民同じ会社なので構成になるかと思えます。2点あるのですが、1点目は同じ構成をされているので、地理・歴史・公民で同じところに星がつくのではないかという疑問、もう1点は、答申の資料の中にあります、地理・歴史・公民の東京書籍さんは「チェック」「ト

ライ」が教科書の下に新しく設定されました。それと章全体の学習を確認する「基礎・基本の確認」が構造化されていて、学習の流れが明確であるというのが、地理・歴史・公民とも文章の中に表記されております。先ほどの質問とリンクするのですが、その評価から歴史分野と公民分野で観点1に星がないということについて、その2点についてお答えいただければと思います。

○吉田校長

それぞれ社会の分野について、全く同じところに星があるわけではございません。これはもちろん、最初に申しあげましたようにどの観点も優れているという状況はございますが、とりわけ我々が注目したのはそれぞれの分野別に特にこういったところは優れているというところを教科用図書会社別、分野別に検討しましたので、結果的に特に優れているというところが分野としては、それぞれ異なるという状況になっております。もう1点の御質問の構造的な学びのところでございますが、やはり公民もそうですけれども子供たちにとって課題の設定から課題追究そして最終的に基礎・基本を自ら確認して欄が設けられていることで、子供たち自らが目当てをはっきり持って、そこをしっかりとチェックし振り返っていく、そういう流れがはっきりしていることが主体的な学びをしっかりと作っていくことにつながるという意味でそういったところを特にそれが効果的になされている分野につきましては、星印を示させていただいております。

○西川委員

今、ご指摘させていただいたのは地理・歴史・公民ともに選定理由の中に1番上の丸印にそれぞれ「チェック」「トライ」があって、基礎・基本の確認ということで、基礎・基本の確認についてそれぞれの分野で評価されたのかと思ったのですが、星の方が地理にはあって歴史と公民にはなかったもので、それはなぜなのかという疑問でご質問させていただきました。

○吉田校長

先ほどの説明と重複するかもしれませんが、結果的に当然それぞれ優れているというところは、いわゆるチェックとして基礎・基本の確認といった流れ自体は各分野共通しておりますので、その流れ自体は共通するもの

です。しかしながら、それぞれの分野によってその構成の仕方というものは異なりますので、そういったところを踏まえてあくまで、これがあるからだけで判断しているわけではなく、それが効果的に行われているかという視点で検討したところでございます。

○高田教育長 続いて、種目「地図」について、質疑を行います。答申書の5～6ページ、報告書の19ページの部分となります。何か御質問・御意見はありますか。

○西川委員 2点ありまして、東京書籍の地図は小さめだったと思いますが、それが推薦の判断の中にあっただかということと、地図の場合、他教科と比べて星の数が相対的に少ないと思います。そうした時に、先生方が学習の指導をする上で創意工夫をしていただきたい点があるのかと思いますが、いかがでしょうか。

○吉田校長 まず地図の大きさについてでございますが、帝国書院の地図の方は見開きが大きく見やすいというのがございます。大きさだけでももちろん判断しておりません。大きいことで結果的に大きさをうまく活用して、それぞれの場所がわかりやすく表示されているかという表示のされ方を見ておりますので、大きさそのもので判断しているものではございません。従って小さくても、それが効果的に表示されていればそのことは別のものになりますので、大きさだけで判断はしていないというところでございます。それから、星印が少ないということにつきましては、決して非常に優れていないということではございませんが、とりわけ地図については、実際に授業の中で資料として活用するという場面が多いということから、実際には資料として活用する時に、優れているかという観点で見ているところもございまして、そういった意味では他のものと比べると星の数が少なくなっているところがございます。

○高田教育長 続いて、種目「数学」について、質疑を行います。答申書の6ページ、報告書の20～26ページの部分となります。何か御質問・御意見はあり

ませんか。

○平田委員 数学ですが、昨年度選ばれたのは学校図書とお聞きしているのですが、今回の評価で東京書籍は満点というか星が5つ付いて、逆に学校図書は1つだけですが、これは東京書籍の内容がこの1年で劇的に良くなっているということですか。それとも、例えばこの視点が変わったのでそれに合わせてということなのか、選定される先生がそれぞれ去年の先生と観点が違うからなのかこんなに評価が変わるのが不思議に感じます。

○吉田校長 今回の選定につきましては、前回の選定の評価を参考にしているものではございません。従って、前回の選定がどういう内容であったかということを中心に検討をしているわけではなく、あくまで今回検定を通過している教科用図書についてのみ検討しているものですので、前回からの違いが生じるということとはございます。そしてその違いが大きいかどうかというところは、選定委員会としては把握はしておりません。

○高田教育長 続いて、種目「理科」について、質疑を行います。答申書の6～7ページ、報告書の27～29ページの部分となります。何か御質問・御意見はありませんか。

○西川委員 理科はこれまで啓林館を使用されていたと思いますが、啓林館は、図とか写真とか大きくされて工夫されていると思ったのですが、観点3に星があるのとないのとで差がついたのかと思いますが、その観点3が大きく左右したという理解でよろしいでしょうか。

○吉田校長 実際に今回選定いたしました東京書籍については、例えば1年生の121ページには、実験の際の、実験の方法やステップそして結果の見方それから考察のポイントというふうに実際に学びを進めて行く上でのプロセスが非常に丁寧に記されております。そういった意味で、結果的に主体的な学びがしっかりできる工夫があるかどうかというところを考慮して検討したところ、そういった違いになったというところがございます。

○高田教育長 続いて、種目「音楽（一般）」について、質疑を行います。答申書の7

ページ，報告書の30ページの部分となります。何か御質問・御意見はありませんか。

○高田教育長 続いて，種目「音楽（器楽合奏）」について，質疑を行います。答申書の7ページ，報告書の31ページの部分となります。何か御質問・御意見はありませんか。

○高田教育長 続いて，種目「美術」について，質疑を行います。答申書の7～8ページ，報告書の32ページの部分となります。何か御質問・御意見はありませんか。

○高田教育長 続いて，種目「保健体育」について，質疑を行います。答申書の8ページ，報告書の33～34ページの部分となります。何か御質問・御意見はありませんか。

○西川委員 「保健体育」の場合，星が2つと3つということで，観点1のところが大修館書店だけが付いているので，「基礎・基本の定着」でよかった点を改めて教えていただければと思います。

○吉田校長 例えば，「基礎・基本の定着」という点で，大修館書店の場合には，「章のまとめ」として知識・技能の確認問題が徹底されております。そして，確認するだけでなく，思考・判断・表現の問題さらには学びに向かって学習の振り返り，自己評価を繰り返していくような工夫がなされているところから，非常に基礎・基本を徹底させる，そういう意味で優れた内容になっていると検討したところでございます。

○西川委員 自己評価について，他社にはなかったのですか。

○吉田校長 自己評価だけをとらえるのではなくて，こういった問題から自己評価までの流れで見た時に，そういったものが充実しているというところで判断しております。

○高田教育長 続いて，種目「技術・家庭（技術分野）」について，質疑を行います。答申書の8～9ページ，報告書の35ページの部分となります。何か御質問・御意見はありませんか。

- 高田教育長 続いて、種目「技術・家庭（家庭分野）」について、質疑を行います。答申書の9ページ、報告書の36～37ページの部分となります。何か御質問・御意見はありませんか。
- 高田教育長 続いて、種目「英語」について、質疑を行います。答申書の9ページ、報告書の38～40ページの部分となります。何か御質問・御意見はありませんか。
- 西川委員 今回英語でかなり改訂された部分が多いと思います。小学5年6年からの流れもあると思いますが、2点あるのですが、1点目は現在使われている小学5年6年の教科書の流れを引き継いで推薦しようという意図があったのかということと、もう1点、本市はグローバル化の人材育成ということで英語に力を入れていこうということで、英語の教科書の場合、難易度がかかなり分かれる教科書だと理解しているのですが、そうした中でグローバル化に向けた人材育成と教科書の選定の観点別に難易度はないですが、難易度についても何か考慮された点があるのか、2点お願いします。
- 吉田校長 まず1点目の小学校5・6年生が教科になったことによる流れについてですが、基本的に小学校で使われている教科用図書との流れを考慮して今回選定をしているわけではございません。あくまでも中学校の英語の教科用図書としての内容について検討したものでございます。もちろん、その中で小学校での学習が効果的に振り返ることができるような工夫がなされているかという観点では見て参りました。従って、その結果先ほど言いましたように東京書籍ではきちんと最初に Unit 0 という形でしっかりと振り返らせる場面が設けてあることから今回選定するところではございます。それからもう1点、難易度について、基本的に先ほど文部科学省の検定のことを申し上げましたが、難易度の易しい、難しいという内容で今回選定の判断をしております。従って、あくまでも観点を踏まえての検討でございますので、内容そのものの難易度については今回の選定理由とはしてございません。

○西川委員 確認ですが、現在小学校は東京書籍を使っていると思いますが、その流れを踏襲すると Unit 0 から復習することがしっかり踏まえられるという認識があったのですが、そうではなくて各教科書会社をそれぞれの分野で観点で見ていくということで理解できました。

○高田教育長 私の方から 1 つ質問させていただきますが、TGG (Takehara Global Gateway) を進めていくということで、中学校 2 年生 3 年生を対象にハワイと交流していった、目指す子供像で言いますと英語でディベートができる生徒を作りたいとか、あるいは竹原をハワイに行って発信できるそういう生徒を作っていきたい。また、ハワイの生徒たちを迎えてお互いの文化を交流しながら、グローバルな視点を持っていく子供たちを育てたい。そういったことを重要な竹原市の施策ということで取り組みを始めましたけれども、そういった面で今回、東京書籍の教科書を推薦いただくということで、その今私が申し上げたような趣旨から言って、そこになうものなのかどうか、そういった観点で特に東京書籍に期待できる部分があるとか、もし会長としてご意見がありましたら聞かせていただければありがたいと思います。

○吉田校長 今回、5 観点を基に検討いたしましたので、竹原市の事業に見合う子供の育成というところで、いわゆる教科用図書はその事業の趣旨等を踏まえて選定をしたわけではございませんが、結果的にこの東京書籍は先ほど主体的な学びが充実しているということを申し上げましたけれども、いろんな單元の中でそういったディベート的な発想をしたりということを取り入れる單元があったりというところで、ニーズに合うような工夫はなされていると受け止めております。しかしながら、そのことは選定委員会の理由ではございませんので、この場で私見的なものだと申し上げます。

○高田教育長 続いて、種目「道徳」について、質疑を行います。答申書の 10 ページ、報告書の 41～44 ページの部分となります。何か御質問・御意見はありますか。

- 高田教育長 その他に、全体を通して質疑のものはございませんか。
- 西川委員 冒頭にもあったのですが、推薦は東京書籍が非常に増えたという中で、観点別も含めてですが、何か東京書籍が新たな取り組みをされて、5観点や本市の教育目標とマッチするような何か工夫がされたポイントがあれば教えていただければと思います。
- 吉田校長 今回東京書籍が数としては多くなっております。これは個別にそれぞれ教科ごとに検討しましたので、結果的に東京書籍が多くなっているということでございまして、共通してこういうことだからこういうことになったというわけではございませんが、しかし、本市としてはやはり本市の状況を考慮した時に、これから主体的な学びというものが十分充実させる必要があるといった視点やあるいはICT教育の更なる充実、そういった視点をしっかり観点の中で見ていく中で、そういったところが充実しているということが結果的にあらゆる教科の中でそういったことにつながっているということは考えられます。
- 竹下委員 教科によって会社は何社かありますが、これが全てですか。これ以外にも教科書を作っている会社があるのですか。これ以外もあるなら、それは選にも挙がらなかったということは何か理由があるのですか。
- 大橋課長 国の検定を通っているものの教科書はここに挙げてありますが、全て調査をしておりますので、検定を通して調査をしていない教科書はありません。ですので、もしかしたら国の検定で落ちた発行者さんがあるかもしれないですが、一応検定が通って担保されたものを県も市も調査をし、採択していくという流れになります。文部科学省の方から目録という形で全ての発行者さんが検定を通ったものは各教科種目ごとに書いてありますので、これに則って調査をしております。
- 高田教育長 それでは、意見が出尽くしましたので、ただいまの意見をもとに採択原案を作成します。選定委員会の答申で推薦された教科書をもとに、採択原案を作成したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

- 浅野教育長 職務代理者 はい。
- 市川委員 はい。
- 竹下委員 はい。
- 西川委員 はい。
- 平田委員 はい。
- 高田教育長 御異議なしと認めます。これより、採択原案を作成しますので暫時休憩とします。
- 高田教育長 それでは休憩を閉じまして、採択原案を確認します。種目「国語」から「道徳」までお手元の案で確認してまいります。種目、発行者名の順で読み上げていきます。「国語」東京書籍株式会社、「書写」東京書籍株式会社、「社会（地理的分野）」東京書籍株式会社、「社会（歴史的分野）」東京書籍株式会社、「社会（公民的分野）」東京書籍株式会社、「地図」株式会社帝国書院、「数学」東京書籍株式会社、「理科」東京書籍株式会社、「音楽（一般）」株式会社教育芸術社、「音楽（器楽合奏）」株式会社教育芸術社、「美術」光村図書出版株式会社、「保健体育」株式会社大修館書店、「技術・家庭科（技術分野）」東京書籍株式会社、「技術・家庭科（家庭分野）」東京書籍株式会社、「英語」東京書籍株式会社、「道徳」日本文教出版株式会社以上でございますが、よろしいでしょうか。お諮りいたします。議案第57号は、採択原案のとおり採択することに御異議ございませんか。
- 浅野教育長 職務代理者 はい。
- 市川委員 はい。
- 竹下委員 はい。
- 西川委員 はい。
- 平田委員 はい。
- 高田教育長 御異議なしと認めます。よって議案第57号は、採択原案のとおり採択

することに決定いたしました。この間、調査員及び選定委員会の皆さんには大変なご苦勞をおかけしましたが、時間を惜しんで竹原市の子供たちのために丁寧な調査をいただいたこと、選定をいただいたことに心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。それでは、説明員は退室してください。本定例会に付議された議案の審議は全て終了いたしました。以上をもちまして令和2年第7回竹原市教育委員会会議定例会を閉会いたします。

令和2年 7月30日 午後 4時00分閉会